

# 二本松市の指定文化財

⑦

県指定

## 『木幡山経塚群』

木幡山は、神仏習合の山として古くから栄えた信仰の山です。円錐形の山頂には蔵王宮があり、山頂の尾根には東西一直線に経塚六基が並び、西端に花崗片磨岩の立石群があります。

経塚とは、末法思想の影響で、貴族たちは経文を容器に入れ、土中に埋置した塚のことで、十一〜十二世紀に全国的に盛行し、中世まで続きました。

経塚は二〜四m、比較的小型の積石式で、円形・方形・



長方形をしていて、高さは1m前後で中央に石室があり、盗掘によって破壊されたものがありました。四基は蓋石を失っているものの、ほぼ原形を保っていました。そのうち一基は地山を掘りくぼめ、平らな石によって方形の石室を造っていました。

発掘調査によって、経塚から石製外筒片、和鏡、古銭、土器片など多くの遺物が出土しました。また、立石群からは土器・宋銭が多数出土し、経塚に伴う祭祀遺跡と見られています。

過去にこの経塚から出土したとされる奈良国立博物館保管の完形な銅製経筒、石製外筒と、調査の出土品から十二世紀の経塚であることが分かりました。

蔵王信仰の立石祭祀信仰遺跡を伴う、稀にみる宗教遺跡として価値が高く、貴重であるため、昭和五十四年(一九七九)に県史跡として指定されました。

県指定

## 『洗心亭』

二本松城跡のりり池を望む高台に建っている桁行五間、梁間二間の茶亭です。

木造カヤ葺き、寄棟平屋造りで、座敷の北側には庭園を配し、眺望に優れています。本亭は、床・棚・書院を付す北端の六畳の上座敷のほかに、八畳の中座敷、六畳の下座敷を並列し、東と北に幅約六〇cmの濡縁を回しています。

また、小天井をはじめ、諸造作、建具など数奇屋風の手法で首尾一貫しています。

本亭の前身は、城内にいくつか建てられた茶亭のうちの「墨絵の御茶屋」です。創建年

県指定

## 『東禅寺のめおとスギ』

小浜・東禅寺の参道両側に立っている二本の大杉です。

寺伝によると、本寺はかつて本宮市糠沢の高松山にあり、天文三年(一五三四)に旧天満宮の跡地であった現在地に開基したといわれています。

代は、記録に延宝七年(一六七九)の頃にすでに本亭の存在が記されていますので、十七世紀中頃と推定できます。

天保八年(一八三七)に後方の崖崩れによって破損したことから、阿武隈川畔地蔵河原(平石高田あたり)に移築され、藩主の釣り茶屋として利用されたといわれています。

その後、明治四十年(一九〇七)ほぼ元の場所にあたる現在地に再移築され、名称を「洗心亭」に改めました。

二本松城は戊辰戦争によって、すべての建物が兵火に遭い焼失していますが、江戸時代の唯一の建物として極めて貴重であるため、平成十三(二〇〇一)年に文化財としての価値



を長く保存する目的で修復工事が行われました。

そして平成十六年、大名による茶屋(茶亭)の県下における数少ない遺構の一つとして重要であるとの理由から、県重要文化財「建造物」に指定されました。

参道右手のものは、根元周囲一一・九m、目通り幹囲九・四m、樹高約四七m、左手のものは根元周囲一〇・二m、目通り幹囲六・七m、樹高約四三mを測ります。樹齢は約

六百年といわれ、樹勢はいずれも良好です。二本の杉の巨木が並んでそびえ立つものとしては県内有数で、昭和二十八年(一九五三)に県天然記念物に指定されました。

